

おやま

NO. 157

2019/2月1日号

町議会だより

発行：静岡県駿東郡小山町議会



12月定例会
11月臨時会

平成30年度各会計補正予算を可決	
一般会計補正予算は262億円に……	2
7人が一般質問 町政のここを問う……	6
・高校生議会を開催しました……	13
・北郷地区から「わたしの金太郎」……	14

12月17日 すがめま保育園餅つき会
重たい杵を持って餅つきに挑戦です。
「がんばれ!」との応援を背に元気いっぱい
力いっぱいお餅をつきました。

12月 定例会

平成30年第8回12月定例会が11月30日から12月14日までの15日間の会期で開かれました。

12月定例会では、町道路線の変更・認定各1件、工事請負契約の締結3件、一般会計予算のほか、各特別会計補正予算10件などの20議案が提出され、審議の結果、いずれも原案のとおり可決しました。

平成30年度各会計補正予算を可決 一般会計予算は262億円に

一般会計補正予算 (第8号)

議案第117号 一般会計補正予算(第8号)は歳入・歳出それぞれに84億2067万2000円が追加されました。

歳入の主なもの

教育費国庫補助金

3737万円増額

小中学校および幼稚園の空調設備に対する「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を見込んだもの。

民生費県負担金

1840万円増額

障害介護給付費の増加が見込まれることから、900万円を増額。

認定こども園の施設型給付費扶助費増加を見込み632万円を増額。

11月臨時会で可決した補正予算(第6号)と合わせて、一般会計の予算総額は262億5737万2000円になりました。

土木費県補助金

1215万円減額

急傾斜地崩壊防止事業について、県補助金の内示に合わせて減額。

総務費寄附金

500万円増額

須走地域振興のために須走彰徳山林会からの寄付。

ふるさと寄附金

80億円増額

今年度の見込額を想定して増額。補正後のふるさと寄附金の収入見込額は、合計148億3000万円になりました。

土木費受託事業収入

9460万円減額

足柄サービスエリア周辺地区の開発道路整備事業に対する社会資本整備総合交付金が確定したことにより受託事業収入を減額。

歳出の主なもの

基金管理費

29億4500万円増額

ふるさと寄附の使い道について、選択された寄附金額の見込により、文化財保護基金に1億円、教育振興基金に14億2000万円、総合計画推進基金に14億2000万円を積立します。

ふるさと振興事業費

48億4081万円増額

ふるさと寄附の返礼品に係る経費。

町道整備事業費

2500万円増額

町道大胡田用沢線整備に伴う測量設計費と町道4211号線道路新設工事の用地買収費。



須走本通りへの横道となる4211号線

小学校施設整備費

3億4600万円増額

小学校5校に空調設備を整備する3億3000万円が主なもの。

中学校施設整備費

1億1950万円増額

小山中学校と北郷中学校に空調設備を整備する1億1750万円が主なもの。

幼稚園維持管理費

4289万円増額

幼稚園3園ときたごうこども園に空調設備を整備する4250万円が主なもの。

自立支援給付費

3600万円増額

利用者の増加と受給者のサービス利用量の増加に伴い、障害介護給付費を増額。

児童発達支援事業費

1369万円増額

児童発達支援事業に対する扶助費を決算見込に合わせて342万円減額。利用者の増加から放課後児童通所支援事業費を1575万円増額。

民間保育所施設運営費

2671万円増額

菜の花こども園(足柄)の入園児数が増加したことから、施設型給付扶助費を増額。



各教室にエアコンを整備(写真は設置例)



開発整備する町道2416号線終点(桑木)

ふるさと寄附金を充当する基金積立状況(平成30年12月末現在)

基金の名称	平成30年度残高(見込)
総合計画推進基金	29億 117万円
教育振興基金	16億3492万円
文化財保護基金	6億2820万円

国民健康保険 特別会計補正予算 (第3号)

議案第118号 国民健康保険特別会計補正予算(第3号)は歳入・歳出に198万8000円を減額し、予算総額は2億1682万2000円になりました。

歳入

保険給付費等交付金

198万円減額

特別交付金のうち保険者努力支援分について、決定額に合わせて減額。

歳出

医療給付費分納付一般分

29万円減額

後期高齢者支援金分等
納付金

81万円増額

介護保険特別会計 補正予算(第3号)

議案第119号 介護保険特別会計補正予算(第3号)は歳入・歳出に169万9000円を追

加し、予算総額は19億4554万8000円になりました。

歳入

介護保険事業補助金

84万円増額

法改正に伴う電算システム改修に対する国庫補助金。

歳出

介護給付費準備基金積立金

3000万円増額

平成29年度までの第6期介護保険事業計画の精算を受けて、余剰金を第7期介護保険事業計画の初年度に追加して積立。

新産業集積エリア 造成事業特別会計 補正予算(第4号)

議案第120号 新産業集積エリア造成事業特別会計補正予算(第4号)は、委託料の出来高請求に伴う部分払いに対応するため、一時借入金の高額を2億4500万円から5億円に増額しました。

上野工業団地 アクセス道路 道路改良工事に着手

議案第122号 平成30年度工業団地アクセス道路整備事業 町道3099号線道路改良工事の請負契約を可決しました。町道3099号線は、国道246号から現在、開発が進む上野工業団地へのアクセス道路として位置づけられています。

今回の工事では、国道側600メートル、幅員9.5メートルの道路改良工事が行われます。国道246号の同箇所(上野地内)では、国交省が視距改良工事を進めている、国道と町道の整備により工業団地へのアクセスが向上します。



アクセス道路入口を視察(撮影:H29年)

旧町立体育館跡地 宮ノ台宅地整備が 始まる

議案第123号 宮ノ台(藤曲)の宅地整備が着手されます。

本事業は、緊急車両の進入路の確保や地元地区からの要望に應えるため、協議や計画の変更に期間を要し、完成時期が次年度になったことから、11月臨時会で繰越明許費の補正予算を可決しました。また、12月定例会で宅地整備工事の請負契約を可決しました。

造成後、1区画当たり200平方メートル以上、13区画程度が分譲される予定です。

小山町の定住事業が促進されることを期待します。



旧町立体育館跡地を宅地整備(藤曲)

11月臨時会 一般会計補正予算ほか6議案を可決 ふるさと寄附を5億円増額

平成30年第7回11月臨時会が11月5日に開かれました。

11月臨時会では、一般会計補正予算のほか、各特別会計補正予算2件などの7議案が提出され、審議の結果、いずれも原案のとおり可決しました。

員賛成で可決され、予算総額は17億83670万円になりました。

北郷小学校放課後 児童クラブを増設

議案第103号 一般会計補正予算(第6号)では、ふるさと寄附金50億円を含む51億5664万円の補正予算が提出されました。

議員から「このように高額な寄附に至った理由は」との質疑に、当局から「町では、学校のエアコン設置や企業誘致など、さまざまな事業を進めています。今後、数十億単位の支出が予想され、財源の確保から補正予算を計上しました。」との答弁がありました。

表決の結果、一般会計補正予算(第6号)は全

昨年新設された北郷小学校放課後児童クラブでは、共働き世帯の増加や施設の安心度・利便性の高さから利用者の希望が増加しています。

現施設の広さでは、来年度に待機者が発生することから、その対策として施設の増設を計画するとの説明がありました。

国や県からの補助金を活用して、6月からの運営を目指します。

一般会計補正予算(第6号)は全



待機者対策のため北郷小学児童施設を増設

常任委員会

報告

総務建設委員会

委員長 遠藤 豪

総務建設委員会では、付託された4議案についての審議を12月5日に行い、いずれも原案のとおり可決すべきものとなりました。主な内容は次のとおり。

町道路線(町道4096号線)の変更について

Q 町道の交差点が直角になるが、地元地区から一旦停止などの要望は。
A 地元地区との協議は、何度か開催しており、いろいろな要望をいただいた上で整備を行っています。今後もご意見があれば、応えていきたいと考えています。

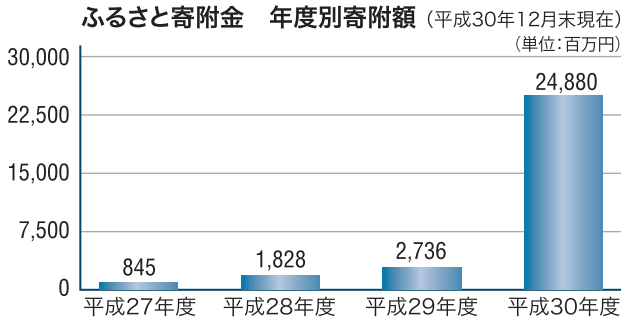


付替え整備した町道4096号線(下原)

一般会計補正予算(第8号)

Q ふるさと寄附金について、11月臨時会で50億円が追加されて、今回は80億円が計上されている。どのような理由でこのような高額な寄附となったのか。
A 返礼品にアマゾンのギフト券を加えたことで、寄附額が増加しました。年末にかけて更に寄附が増加する傾向にありますので、80億円の補正予算を組みました。

Q ふるさと振興事業費48億4081万円のうち返礼品に係る金額はいくらか。



A ふるさと振興事業40億2592万円から返礼品に係る費用を支出します。

Q ふるさと寄附金80億に対して占める割合が5割近くになるが、どのような内訳となるのか。

A ふるさと振興事業40億2592万円には、返礼品に係る費用のほか商工会への事務委託料や返礼品の調達に係る費用なども含まれています。

Q 道の駅地域振興センター管理費 大型ディスプレイの詳細は。

A 道の駅「ふじおやま」の地域交流ルームの壁に大型ディスプレイを設置します。

富士山の四季や観光情報、有事の際の防災情報を配信していきたいと考えています。

Q 開発道路整備受託事業は足柄サービスエリア周辺の道路事業とのことであったが、事業収入を減額した理由は。

A 足柄サービスエリア周辺地区で実施している町道2416号線他1路線道路改良工事の実施に当たり、社会資本整備総合交付金が充当されました。これに伴い、充当分を開発道路整備事業の受託事業から除きました。

Q 急傾斜地崩壊防止事業債の減額について、どの場所を実施する予定であったのか。

A 竹之下地区内の神田急傾斜地です。減額の理由は、県費補助金の交付決定により補助金額が確定したため、これに合わせて減額措置しました。



神田急傾斜地工事の完成は次年度へ(向方)

Q 急傾斜地の全面工事まであと少しだが、いつまでに完成するのか。

A 平成30年度の完了を見込んで事業を進めていきましたが、県費の補助採択の状況により、1年ほど先送りになりました。平成31年度の完了を見込んでいます。

新産業集積エリア造成事業補正予算(第4号)

Q 一時借入金2億5500万円の用途は。
A 事業を実施していく上で事業者への出来高払いが想定されることから、予算の一時借入金の最高額を5億円にするものです。



認定した町道5051号線を現地視察(一色)

文教厚生委員会では、付託された3議案についての審議を12月6日に行い、いずれも原案のとおり可決すべきものとなりました。主な内容は次のとおり。

平成30年度
一般会計補正予算
(第8号)

Q 保育園維持管理費の修繕料200万円の内容は。

A いきど保育園の床下のシロアリ駆除と傷んだ箇所、0歳児の部屋にある沐浴室のベビーバスの修繕です。そのほか、園内の細かな修繕費となります。

Q 民間保育所施設運営費に2671万円増額補正されている。園児増加との説明があったが、現在、菜の花こども園に入園している園児数は。

A 菜の花こども園は定数90人で、現在96人が通園しています。足柄地区から通っている園児は96人中36人です。

Q 小学校、中学校、幼稚園の整備事業に関して、エアコンの設置に向けた調査は終了していると思うが、その調査結果について何う。

A 調査の対象は、小学校5校、中学校3校、幼稚園3園ときたごうこども園で、現地にてエアコンが設置できるかどうか、室外機の設置箇所等を調査しました。

調査の結果、須走中学校は既存のエアコンを引き続き使用し、その他、小学校、中学校、幼稚園、こども園では、普通教室1部屋につき1基程度設置し、特別教室や調理室、ランチルームなどの大きな部屋には、それぞれの部屋の面積に応じて設置します。

Q 文化会館等管理運営費460万円の詳細な説明を。

A 消防設備点検で指摘を受けた箇所は、菜の花ホール、引割幕の修繕になります。

スプリングラーの修繕は、大ホールの一斉開放弁の錆・腐食等による仕切弁・排水弁等の交換です。誘導灯の修繕は、バッテリー容量低下や本体老朽化によるもので、図書館、金太郎ホール客席出入り口など7カ所です。

菜の花ホールの引割幕の修繕は、幕の老朽化により擦れたり、破れたりしている箇所が目立つため修繕を行います。



劣化が目立つ菜の花ホールの幕を修繕

Q 子育て支援センター備品購入の内容は。

A 子育て支援センター「きんたろうひろば」に屋外で遊ぶ滑り台と室内に設置するスタンドなどを購入する計画です。



きんたろうひろばに滑り台が設置されます

Q 子育て支援センターの現在までの利用者数は。また、支援員は足りているのか。

A 11月末現在、きんたろうひろばの利用者数は9850人です。1カ月当たり1000人前後の利用があります。

支援員は常時2人いますので、特に支障はありません。

Q 障害介護給付費3600万円増額は利用者の増加との説明があったが、全体数は。

A 年間で約120人が利用しています。

Q クアオルト健康ウォーキング推進事業について、須走と足柄の2コースで実施しているが、これまでの参加者数は。

A 参加者は2コースの合計で114人です。



クアオルト足柄コースを委員会で視察

Q 小・中学校就学援助費の学用品費等扶助は、何人分を計上し、いつ頃支給されるのか。

A 入学前に給付する学用品費等扶助で、小・中学校、それぞれ6人分を見込んでいます。今年度から前倒しで、3月に支給する予定です。

介護保険
特別会計補正予算
(第3号)

Q 介護予防・生活支援サービス事業費が465万円増額となっている。決算見込による補正であったが、事業の推移について説明を。

A 要支援1・2の方が増えたことと、今年度から認知症地域支援推進員が成美地区を重点的に廻った結果、早期に認知症などで支援が必要な方が把握でき、当初よりもサービスを受ける対象者が増えました。



森村橋復原工事の進捗状況の説明を受ける

一般質問に7人が登壇

町政のここを問う



鈴木 豊
(新生会)

一般質問 (一括)



小・中学校ともに給食費無償化を実施している自治体は76市町村(4.4%)
(写真:須走小学校ランチルーム)

Q 小学校・中学校の給食費の無償化は
A 財源を確保した上で教育委員会と調整し検討します

現在、保護者負担となっている小学校・中学校の給食費の無償化について提起する。

小山町では、子育て支援策として出産祝い金や

高校生までの医療費助成のほか、幼稚園・保育料の軽減などの支援策を行い、子育てに優しいまちづくりをうたっている。

財源などの問題もある

かと思うが、子育て支援や定住・移住促進の観点から給食費の無償化等を検討してはどうか。

Q 小学校・中学校給食費の無償化等実施について、町長の見解を伺う。

A 町長
町教育委員会によると、

年間約7000万円にも上る給食費の徴収事務や未納・滞納者への対応等については、すべて学校で行っているとのことでした。

また、天候等による学校行事の振替に伴う調整など、学校の教職員等に事務の負担が掛かっています。

子育て世代への支援の

更なる充実により町の魅力を向上させ、移住・定住の促進を図るとともに、教職員等の事務負担軽減の見地から、小学校・中学校給食費の無償化について、その財源確保はもとより、教育委員会とも調整の上、検討していきます。

Q 生徒数の減少に伴う学校部活動の対応は
A 各校の課題を踏まえて、より良くなるよう検討します

部活動は、生徒が共通の目標に向かって協力し合い、励まし合うことで自主性や協調性などを育むことが期待されている。

近年、部員数や指導員の減少に伴って、運動部の消滅など全国的に多くの課題を抱えている。

文部科学省では、複数の学校でチームを編成する複数校合同部活動やス

ポータルクラブとの連携を推進している。

Q 運動部の現状に対して、どのように対応しているのか。

A 教育長
校長会を主催として部活動検討委員会を立ち上げ、部活動の現状や課題について年2回程度の話し合いを行い、改善を進

めています。その成果として、昨年度から部活動の競技種目の堪能な方を部活動アドバイザーとして配置し、生徒の指導の充実に努めています。

Q 生徒数減少に対して今後の運動部活動の在り方をどのように考えているか。

A 教育長
運動部活動は、教育課程外の活動に位置づけられています。生徒数減少に伴う各校の課題をしっかりと踏まえ、生徒の自主性、自発性を育み、より良い運動部活動となるよう検討していきたいと考えています。

一般質問
(一括)



池谷 弘
(おやまの会)



次世代農業の現場でドローン実用化に向けた研究が進む
(写真:農業総合推進協議会 農薬散布のデモフライト)

Q 東京オリンピック ロードレース成功への対応は A オールおやまで取り組んでまいります

東京オリンピック・パラリンピックの自転車競技はコースも長い

ため、町民の協力による大勢のボランティアが必要であり、町道などの競技環境を整えることも大切である。また、沿道で選手を間近に応援して競技を盛り上げていきたい。

への協力依頼は。

Q オリンピック推進局長

町内の各区、企業、サークル等や町外の企業、自治会等、さらに、小山町と友好関係にある市町等に協力をお願いしていく予定です。

募集の方法として、グループ単位で募集を行うことを検討しています。

Q 道路整備の計画は。

A オリンピック推進局長

町として必要とされる道路整備は、コース内の舗装補修や道路路上に出て立木の枝の除去等で、2020年3月までに実施する計画です。

Q 選手へ興味を持てる応援の方法は。

A オリンピック推進局長
自転車ロードレースの

楽しみ方を知っていただくとともに、出場国や出場選手を知っていただくことが大切だと考えています。そのため、自転車競技に関するさまざまな情報提供やイベントを開催し、町民の方に興味を持っていただく取り組みを行ってまいります。

Q 農業の効率化に向けてドローンの活用や支援策は A 国や県の動向に注視し、情報を提供してまいります

田植え等の農作業は機械化されているが、農業者の高齢化と相まって、水田内での農薬散布などが重労働となっている。

国では、ドローン導入に規制緩和を進め、メーカーもGPSにより高精度で液剤や粒剤の農薬散布ができる機種を製造している。

しかし、ドローンの操縦には技能が必要であり、

機械の購入や資格取得に経費も掛かる。

Q ドローン導入や活用方法の説明会、技能支援は。

A 農林課長

ドローンの説明会は、農業総合推進協議会の主催で、町内農業従事者を対象に農薬散布のデモフライトを実施しました。技能支援では、町の職

員を対象としたドローンの操縦体験講座を開催しました。

Q ドローン導入に対する助成は。

A 農林課長

現時点では、国や県等からの補助制度はありませんが、今後、国や県等の動向に注視し、情報を提供してまいります。

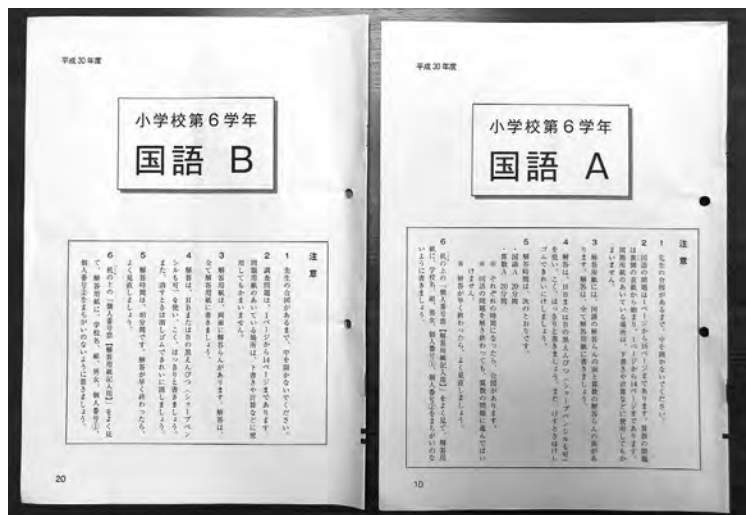
Q 町民に対しての操縦講座や免許取得支援は。

A 農林課長

現在、町では免許取得支援の予定はありません。体験講座開催の計画はありませんが、講座は協会の認定ではないため、資格の取得はできません。資格の取得を希望される方は、指定の講座等の受験をお勧めします。



佐藤 省三
(おやまの会)



基礎的な知識を問うA問題と活用する力を問うB問題
来年度は一体化した出題形式に変わり中学に英語が加わる

Q 地域包括ケアシステムの将来的な見通しは A 小山町に合った地域包括ケアシステムを構築します

団塊の世代が後期高齢者となる2025年が7年後に迫る中、介護と医療の施設型から在宅型へのシフトや多職種連携が大きな課題となっている。

Q 町長

高齢化の進展に伴い、在宅での医療や介護を必要とする方の増加が見込まれるため、その生活を支える多職種連携体制の構築、在宅介護サービスの確保など、町に合った地域包括ケアシステムを構築していきます。

Q 在宅医療や在宅介護の充実に向けて、どのような事業を進めているのか。内容や参加者数を伺う。

A 介護長寿課長

Q 地域包括ケアシステムの構築について、小山町の現状と今後の見通しについて伺う。

御殿場市医師会等と連携し、医療と介護の専門職による研修会を実施しています。これまでに5回開催し、参加者の累計

は658人です。

Q 2025年に向けて、今後どのような事業を計画しているのか。

A 介護長寿課長
地域での生活が継続できるような介護予防や重度化防止事業を充実するとともに、必要な施設等の整備を図ります。

Q 平成30年度全国学力調査の本町の結果と分析は A 小学校・中学校共に概ね全国平均を上回っています

文部科学省による全国学力調査・学習状況調査が行われ、小学校6年生と中学校3年生が参加した。そこで、今年度の結果をどのように分析しているのか伺う。

小学校では、国語の知識を活用する分野と算数の基礎的な知識や計算、理科全体が全国平均を上回りました。

中学校では、国語の知識を活用する分野以外は、全国平均を上回るか同等の結果でした。

Q 調査開始以降、活用を図るB問題の正答率が、基礎的なA問題よりも下回っている。この原因は、

A 教育長
B問題は知識を活用して回答する調査になります。知識を問うA問題に比べB問題は難しく、全国的に正答率は低くなっています。本町も同じ傾向にあります。

Q 本町の結果と分析について伺う。

A 教育長

学力調査においては、

学習状況調査では、本町の生徒は、地域の行事やボランティア活動に進

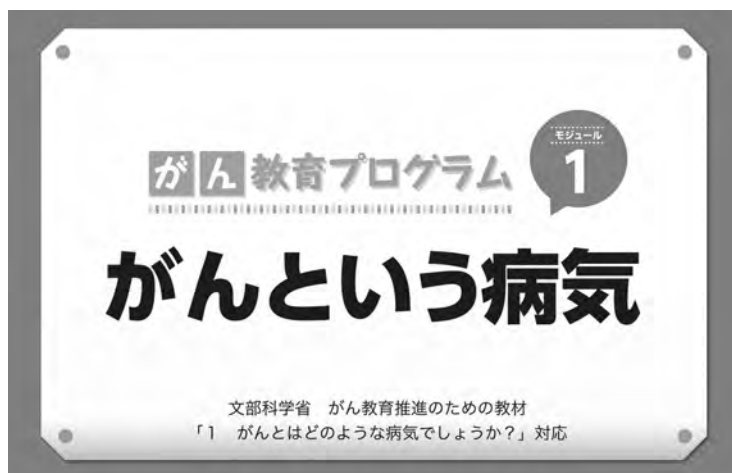
んで参加している割合が高い結果となりました。家族や地域の方々と一緒に、子どもたちのやる気や「自分や周りの人も大切にできる心」を育てていきたいと考えています。

どの教科においても共通することですが、読解力や応用力に要因があると考えています。

一般質問 (一括)



池谷 洋子



文部科学省が作成した中学・高校生用の「がん教育」教材
(出典:文部科学省ホームページ)

Q がん教育の積極的な取り組みとがん検診講演会の開催は A がん検診講演会の実施を検討します

文部科学省は2020年度から小学校で、2021年度から中学校で、2022年度から高校で順次「がん教育」を全面实施する計画である。「がんについて正しい理解を深め、健康と命の大切さを学ぶ」これが目標である。

人がかかる国民病であり、死因の約3割に上る。がんは、悪い生活習慣が主な原因と言われ、喫煙や環境汚染のほか、食べ物や家族の遺伝との関連もあることなど、がん予防を学ぶことは重要と考える。

講でできる講演会の開催を新たに検討していきます。可能であれば、県立静岡がんセンター総長に講師をお願いしたいと考えています。

昨年度の県内の実施率は小学校27・5%、中学校では40・3%になっている。このがん教育を受けた子どもたちに大人が背中を押される形で検診の受診率が大きく向上したとの報告もある。

町民向けにがんの専門医やがん経験者などによる「がん検診講演会」を開催することは、

家族の健康について、家族間で話し合うことの重要性は、

小さい頃からがん教育を授業として受けることで、予防の基礎知識を身に付けるとともに検診を定期的を受診する流れにもつながることや、がんと分かった後の行動も必ず違ってくるものと確信している。

町長

講演会という形ではありませんが、広く町民向けのイベントとして、おやま健康フェスタを毎年開催しています。会場には、静岡県対がん協会による乳がんの触知モデルの展示、静岡県結核予防会による肺のレントゲン写真を展示するなど、がん予防の啓発と検診の受診勧奨を行っています。

家庭内で、正しい知識を身に付けた家族がお互いに生活習慣を見直すことは、家族の健康につながります。さらに、互いに定期的な検診の受診を促すことは、最も効果的な検診の受診勧奨策です。

町長

町の役割は、すべての町民の皆様が生活習慣を改善するためのお手伝いとして、効果的な情報を適切に継続して提供していくことであり、家族の間で健康を考えることにつなげていただけるよう努めていきます。

小・中学校での「がん教育」の状況と今後の取り組みについて伺う。

小学校5・6年生、中学校の保健体育の授業で、生活習慣病の予防、喫煙と健康、がんの予防など、がんになる原因や予防策について詳しく勉強し、より良い生活習慣等について学んでいます。

また、学校ごとに薬学講座を実施して、喫煙とがんの発生率の関係について学んだり、がん研究振興財団からの提供資料を基にした授業を計画したりしています。

現在、がん教育への関心も徐々に高まってきています。生きるための大切さを学んでいくためにも、教育委員会として学校の取り組みを支援していきたいと考えています。

現在、がんは2人に1

今後、町民の皆様が聴

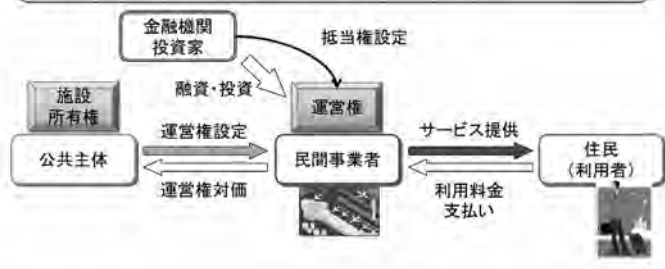
努めていきます。



高畑 博行

コンセッション方式

- ・利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する方式。
(平成23年PFI法改正により導入)
- ・公的主体が所有する公共施設等について、民間事業者による安定的で自由度の高い運営を可能とすることにより、利用者ニーズを反映した質の高いサービスを提供。



水道法の改正によりコンセッション方式が可能となったが議論は続く
(資料:内閣府ホームページ)

Q 町の公共交通の将来像は A 町民にとって利便性の高い仕組みを築くことです

町では平成26年にコミュニティバスを、その翌年に地域実証実験通行バスの運行を開始して久しい。この間、地域公共交通会議でも議論されてきたはずだ。

対応可能な公共交通を構築し、利便性の高い仕組みを築くことです。

しましたが、利用の需要が無かったことや利便性が低いことが要因と考えています。

提案し検討します。

実績の厳しい路線はどこか。また、本町の公共交通全体の分析は。

Q 地域公共交通会議での便数の削減やデマンド方式導入などの検討は。

Q なぜ立地適正化計画を作成し、連動させて公共交通網を考えないのか。

Q 本町の公共交通の将来像について町長の考えは。

A 町長戦略課長
乗車実績が特に厳しい路線は「湯船・柳島コース」と「くわぎルート」です。地区別懇談会等の意見を基に全体のルートを設定

A 町長戦略課長
地域公共交通会議では、コミュニティバスの現状について情報共有を行っており、今後、改善策を

A 町長戦略課長
今後、立地適正化計画を策定する際には、公共交通網も含めたまちづくり計画として、検討していく必要があると考えています。

A 町長
町民の多様なニーズに

傾向となっています。一方で、予想される大規模地震などの災害に対応できるように施設の維持管理や更新が求められています。事業を持続可能なものとしていくためには、定期的な料金改定、資本的事業実施により増加が予想される企業債残高への対応などが大きな課題となっています。

Q 現時点で、本町は水道の民営化を検討しているのか。

Q 安易に水道の広域化をすべきでないとの声もあるが、どう考えているか。

Q 水道法改正に伴い事業民営化を検討しているのか A 国や県、他市町の動向を注視し慎重に見極めていきます

国はコンセッション方式による水道の民営化・広域化を考えている。これに対して町の考えと水道事情について質問する。

国や県、近隣市町の動向を注視しながら情報収集に努め、コストの削減や危機管理なども考慮し、慎重に見極める必要があると考えています。

A 上下水道課長
国や県、近隣市町の動向を注視し、広域化についても慎重に見極める必要があると考えています。

Q 町の水道事業の現状と課題について町長に伺う。

A 町長

人口減少や節水機器の普及により水需要は減少

A 町長戦略課長
国や県、近隣市町の動向を注視し、広域化についても慎重に見極める必要があると考えています。

A 上下水道課長
国や県、近隣市町の動向を注視し、広域化についても慎重に見極める必要があると考えています。

A 上下水道課長
国や県、近隣市町の動向を注視し、広域化についても慎重に見極める必要があると考えています。

一般質問
(一問一答)



渡辺 悦郎
(おやまの会)

産後のお母さんをサポートします
(産後ケア事業、デイサービス型)

小山町では、産後のお母さんと赤ちゃんの健康を守り、すこやかな育ちの支えをするために、助産師による心身のケアや子育て相談を行っています。

<利用できる方>
小山町に住所がある、おむねお生後2か月未満の赤ちゃんとお母さんで、次の条件に該当する人
① お母さんの心身の不調や、育児不安のある人
② 悪化行為の必要がない人

<内容>
① 授乳や乳児のケア
② お母さんの心身の健康管理・生活面について
③ 赤ちゃんの生活や発達などの育児について

事業名	産後ケア事業 デイサービス型
利用施設	小山町乳児健診センター(兼産後ケア)
利用可能曜日	7日
利用できる時間	おむねお生後2か月未満
自己負担金	2,000円(消費税別) *保険料軽減等による生活保護受給者等特別料

<申し込み>
産後ケア事業の利用を希望する人は、小山町健康増進課に申請してください。
(妊娠中から申請がてきます)

<利用方法>
① 小山町健康増進課へ申請書を出してください
② 小山町の母子生活支援センターが選べます
③ 利用施設へ利用希望を伝え、予約してください
④ カードを利用してください
⑤ 自己負担金を利用施設へお支払いください

<申し込み先>
小山町健康増進課
勤務時間：午前8時～午後5時
TEL : 0950-76-6668

小山町では
産後のお母さんを
サポートしています



健康増進課
産後ケア事業ちらし

産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

計画が始まって間もない時期ではあるが、金太郎のようなたくましい子どもが育つ環境を整えるためにも、産後ケアの充実を進めるべきと考える。

Q 妊産婦をサポートしていくための方策は
A 産後ケアサービスを実施して健診費用を助成します

小山町では子育てしやすい住環境の整備を進め、さまざまな施策を展開している。

Q 町で実施している産後ケア事業について、どのように分析しているのか。

A 町長
本町では、すべての新生児について全戸訪問しています。また、必要に応じて、助産師・保健師が育児不安等の軽減に対応するための寄り添い型家庭訪問を行い、本年度は現在までに19件の実績がありました。

Q 町で実施しているデイサービス型事業の利用状況は。また、診療費の負担について何う。

A 健康増進課長
開始されているデイサービス型事業の利用状況は、また、診療費の負担について何う。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

Q 産前サポートについては、先進的に進めてきた。しかしながら、産後のサポート体制については、まだ十分とは言えない状況である。

平成30年10月から開

健康増進課長

健康増進課長

健康増進課長



町道整備などの地区要望は建設課が現地を確認



蘭田 豊造

Q 区からの要望に対する町道の維持管理と補修は A 今後も多くの要望に対応できるよう努めてまいります

毎年、町道の維持補修や安全施設整備の要望が各区から提出されている。

町では区長立ち合いの下、優先度の確認と取り

まとめを行い、維持補修等を実施しているが、住民の満足度に十分に配慮されるものではない。

町民の生活に支障を及ぼさぬよう、町民目線で町道の新設・改良に努めるべきと考え、以下質問する。

Q 平成30年度に区からの道路の維持補修および安全施設に対する要望は何件あったのか。小学校区ごとの地区別件数と実施率について伺う。

A 建設課長

道路の維持補修および安全施設の要望は、合計227件で、地区別件数と実施率では、成美地区が60件で43・3%、明倫

地区が20件で85%、足柄地区が34件で61・8%、北郷地区が86件で40・7%、須走地区が27件で59・3%です。

要望内容で多いものは、維持補修では舗装や側溝で、安全施設では区画線、カーブミラー、防護柵の新設や補修です。

Q 維持補修および安全施設整備の予算は、どのような基準で各地区へ配分しているのか。

A 建設課長
また、緊急性は除き、どのように優先順位を決めて実施しているのか。

予算の各地区への配分は、5地区に対して各地区平等に道路維持補修事業費550万円と安全施設整備事業費100万円の計650万円を目安に実施しています。

優先順位は、現地確認を実施した上で危険度、利便性、受益者数、事業費、

区としての優先順位などの要素を総合的に評価して作成した町の素案を各地区区長会と協議して決定しています。

Q 地区別要望に対して実施率のばらつきがあるが、その原因と要望の特性について伺う。

A 建設課長

地区ごとに提出される要望件数が大きく違うところが一つの要因に挙げられます。この要因については一概には言えませんが、地区の中で提出する要望を選定し、より優先順位の高いものに絞って提出している地区もあることが考えられます。

Q 要望が毎年継続となっているものも多い。何年で実施するなどの対策を考えているか。

A 建設課長

実施箇所の決定は、経過年数が長くなれば実施

するという考えではなく、その年度の優先度により実施しています。ただし、毎年優先度の高い要望箇所を順次実施することで、継続要望の優先度が徐々に上昇し、数年後に実施となるケースも多くなります。

Q 区でも歩道の草刈りや枝払いなどを行っているが、区で対応しきれない場合、町ではどのように対処しているのか。

A 建設課長

各区が主体的に実施している草刈りや側溝清掃などの奉仕については、心から感謝しています。最近では、人手不足のため区では対応しきれないとの声を聞くことが多くなっています。このような場合には、職員による直営作業や外部委託により、その都度対応しています。



平成30年

小山町高校生議会を開催

10月20日に小山高校から16名の生徒が参加して、小山町高校生議会を町当局と共同開催しました。小山町高校生議会は、平成28年に選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたのを機に、高校生にも町政に関心を持ってもらうことを目的に始まり、今回で3回目の開催となりました。

議場は大勢の傍聴者で溢れ、高校生議員には緊張した面立ちが残る中、勝又涼菜議長の進行により開会しました。

高校生議員からは、小山町の日常生活に関する課題や町の将来を見据えた提言など5問が堂々と質問され、町長や教育長、担当部長が一問一問真剣に答弁しました。

当局の答弁に対して再質問もされるなど、町政側と活発な議論が交わされました。

高校生の作成した質問は3人から4人が1グループとなり、7月から約4カ月を掛けて練られ、町の総合計画や他市町の先進事例を研究するなど、それぞれの提案の中にとめられていました。若い視点ならではの質問は、どれも議会にとって刺激を受けるものであり、インスタグラムの活用など実施に至った事業もあります。

これからも町の将来を担う若い世代に町政・町議会への関心を高めていきたいと思います。

一般質問の概要

進行/勝又 涼菜 議長

小山町の情報発信について

- 1
 - ・柴田 日向 議員
 - ・伊倉 はな 議員
 - ・村尾 桜咲 議員

図書館の利便性について

- 2
 - ・山田 虹歩 議員
 - ・市岡 優衣 議員
 - ・村松 希海 議員

経済面での金太郎の活用について

- 3
 - ・渡邊 正人 議員
 - ・勝亦 紫音 議員
 - ・佐藤 美月 議員
 - ・村上 真鈴 議員

高齢者と若者の積極的な交流について

- 4
 - ・岩元龍之介 議員
 - ・杉山 実夢 議員
 - ・柴田 葵 議員

小山町の防災行事について

- 5
 - ・廣戸 蓮大 議員
 - ・加瀬 心結 議員
 - ・増田 航陽 議員
 - ・常盤 天那 議員



高校生と課題を研究

一般質問の作成に当たって、議会では高校生と町の状況を分析しました。また、町議会の役割や一般質問の要点などを伝えました。

「こうすれば町が活性化するので」と議員へ質問があり、高校生議会への意気込みが伝わってきました。

委員会で意見交換

高校生議会終了後、委員会ごとに分かれて「足柄駅交流センターに期待するものは」「幼・保育園から高校間で生徒が交流できる方法は」をテーマに意見交換を行いました。

高校生からは「足柄駅に勉強できるスペースや文化部の作品を展示できるコーナーがあるとうれしい」「文化祭や部活動で生徒の交流ができないか」などの意見が挙げられました。

議員から「意見を取り入れながら、委員会などで提案をしていきたい」と伝え、若い思いを受け止めました。



高校生議会終了後も活発な意見が交わされました



議会広報委員会で小山高校を訪問

わたしの金太郎

町内で小山町を金太郎のように元気な町にするために頑張っている団体・人を議員自ら訪ねてお話を伺います。



文化祭や市町の書展に出品・展示をされている書愛好家の田代秀子さん(大胡田)にお話を伺いました。

Q 書を始めたきっかけを教えてください。

書道は小学生の頃から始めて、書道の大会で賞を頂いたのがきっかけになります。

Q 書の醍醐味は?

和紙に滲み出る墨の濃淡や線のかすみ等で同じ作品が二度と書けないことです。

Q 書道を続けてきて励みとなることは?

集中して無心になれること、平静な心になれることでしょうか。

Q 詩人・俳人で尊敬する方は?

詩人では「念ずれば花ひらく」の坂村真民、良寛の「五合庵の詩碑」です。俳人は、金子兜太の「水が照るこんなに照るよ冬なれや」の句が大好きです。

Q 町や議会に期待することは何ですか?

地球温暖化に伴う災害が頻繁に起きている昨今、町も万が一のときは、全力を尽くして対応していただきたいと思っています。(聞き手 池谷洋子)

議員研修報告

県外の自治体からまちづくりと公共交通を学ぶ(滋賀県長浜市・京都府京丹後市)

12月18日から20日にかけて全議員で県外行政視察研修を行いました。

滋賀県長浜市は、かつてシャッター通りであった商店街に今では年間200万人も訪れるほどの賑わいをみせています。

黒壁の立ち上げを機に、商店主が郊外に進出する大型店舗には無いものは何かを考え、地域に根差した「ふれ合いの場」の商店街をコンセプトにまちづくりを確立しました。

民間主導でのまちづくりに取り組む「NPO法人まちづくり役場」の活躍も商店街活性化の一助となつている様子がかげえました。

二日目に京都府京丹後市を視察しました。同市は京都府の最北部に位置し、平成16年に旧6町が合併しましたが、高齢化率が35%と高く、一部の地域ではタクシー事業者が撤退するなど公共交通の対策が必須となりました。

しかし、地域ごとの実情を分析して、200円バスやデマンドバス、さらにNPO法人による「ささえ合い交通」など、現在、全国の自治体や交通事業者から注目されるメニューを運行しています。特に「ささえ合い交通」は、スマートフォンを利用した新しい運送サービスで、本町でも検討すべきと感じました。

今回の研修は、町の取



ICTを用いた配車システムを学ぶ

3月定例会の開催予定

3月定例会は平成31年度予算を審議する重要な議会です。

2月20日(水)開会

町長提案説明

2月22日(金)

予算補足説明

2月26日(火)

予算質疑

3月5日(火)

一般質問

3月8日(金)

総務建設委員会

3月11日(月)

文教厚生委員会

3月19日(火)閉会

委員長報告・討論・採決等

いづれも、開会時間は10時の予定です。

議会を傍聴してみませんか

●本会議や常任委員会、傍聴することができません。傍聴を希望される方は、右記の開催予定日に、小山町役場4階議場または議会事務局へお越しください。

編集後記

12月定例会は、追加議案を含む20議案を原案のとおり可決して閉会しました。

今議会は、町道変更や工事請負契約、土地取得、字の区域変更以外は各会計の補正予算に関するものでした。

特に注目をされたのは、ふるさと寄附金の80億円の増額補正でした。さまざま議論があるものだけに、議会としても注視していきたいと考えています。

いすれにしても、平成最後の12月議会だったわけです。改選もあり、新たな年号に変わる今年、小山町議会も町民からの負託に応えられる議会に成長できるように努力する所存です。

(記 高畑 博行)

編集委員

- 委員長 池谷 洋子
- 副委員長 渡辺 悦郎
- 委員 鈴木 豊
- 委員 蘭田 豊造
- 委員 高畑 博行